

小さな居場所

—吹上富士見団地改修計画の提案—

八代研究室
01512072 小林 弘道

1. はじめに

団地とは、戦後の住宅不足を補うために形成された集合住宅形式の一つである。近年、老朽化、少子高齢化、空き家が問題視され始めた。対策として改修事業が活発に行われているが、その範囲は住戸内のみに留まり、外部空間を含めた総合的な住環境が改善しているとは言えない。本計画では、住環境での「居場所」について検討し、埼玉県鴻巣市吹上富士見団地一区画（図1）を計画地に、住戸内外に新たな「居場所」を含めた改修計画を提案する。

2. 居場所

居場所とは居る場所であり、居たい場所である。図2-4に示すように、「住戸との関係」「大きさ」「発生」の3つの分類項目を設定し、住環境での居場所について検討する。

居場所：住戸との関係（図2）

住戸との関係では、「外」「中間」「内」「内外」「内々」の5つに分類する。

居場所：大きさ（図3）

物理的距離の遠近軸、心理的距離の日常軸の2軸によって大きさを4つに分類する。特に図3の第二象限の居場所を「小さな居場所」と定義する。

居場所：発生（図4）

複数の生活経路が関係することで新たな居場所が発生する。発生方法は、複数経路が不意に交わる「交」、経路一部分を共有する「共」、同じ目的点へ複数が集まる「集」、目的点が拡大する「拡」、目的点が近くの経路に影響する「吸」の5つに分類する。

3. 計画概要

Concept：「交」による「小さな居場所」づくり

居場所の検討より「交」「小さな居場所」に着目する。多くの人を持つ共通の居場所（大きな居場所）ではなく、日常にある自分だけの居場所（小さな居場所）こそが住環境において重要であると考え「小

さな居場所（図3）」を計画のテーマとする。また調査において最も頻繁に目にし、印象的であった「交（図4）」をコンセプトに計画を行う。

Problem：閉鎖・同一・未活用・内向化

住宅団地の問題点、老朽化、少子高齢化、空き家に加え、近隣への閉鎖感、住戸計画の同一、外部空間の未活用とそれに応じた内向化が計画地の現状の問題点である。

Proposal：小さな居場所

動線・視線の通り方、開き方と閉じ方を検討し、住戸内に加え外にも小さな居場所をつくる（図5）。

1 Floor Plan Flow：開かれた小さな居場所

- ① 既存の通り芯を基にヴォリュームを抽出する。
- ② 周辺環境を基に追加動線・視線を描く。
- ③ 線に従って既存ヴォリュームを切断する。
- ④ 通り芯を参考に切断ヴォリュームを整頓する。
- ⑤ 内に外が貫入することで動線が増加する。
- ⑥ 動線、余白の増加に伴い視点が多様になる。

2 Floor Plan Flow：閉ざされた小さな居場所

- ① 既存の通り芯を基にヴォリュームを抽出する。
- ② 壁面凹凸にヴォリュームを追加する。
- ③ 追加する動線・視線を描く。
- ④ 線に従って既存ヴォリュームを切断する。
- ⑤ 通り芯を参考に切断ヴォリュームを整頓する。
- ⑥ 壁で強く内外を隔てる。

4. おわりに

小さな居場所の存在は、近隣住人との関係を近い日常のものへと変化させ、その土地に住む価値を生み出す。本計画は、住環境に小さな居場所をつくることで集まって住む利点を活かした集合住宅の一例である。

【謝辞】

団地図面を提供していただきました埼玉県住宅供給公社の皆様に御礼申し上げます。

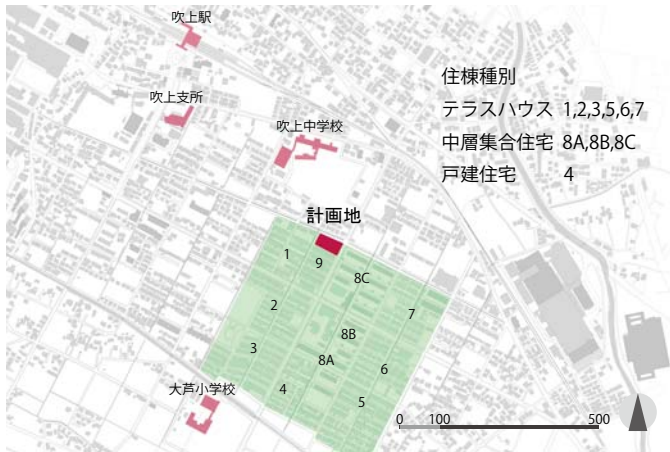


図1. 敷地周辺図

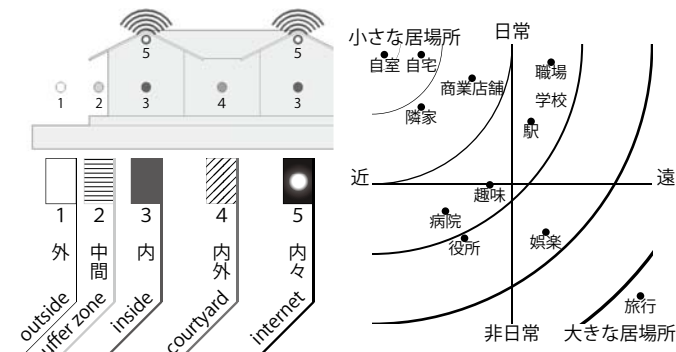


図2. 居場所：住戸との関係

図3. 居場所：大きさ

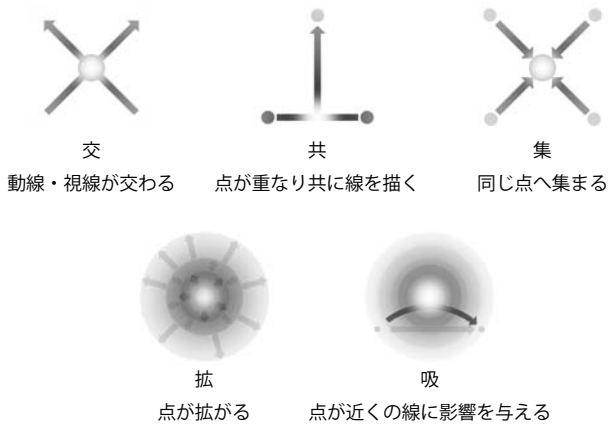


図4. 居場所：発生

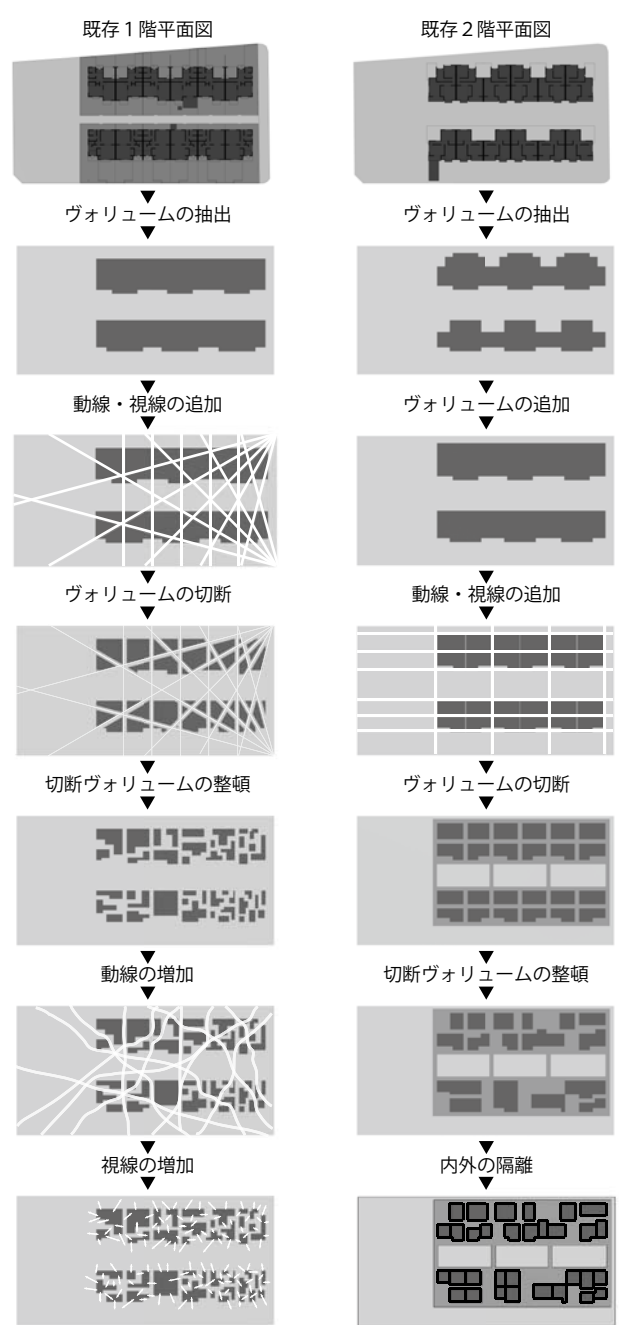


図5. 計画の流れ

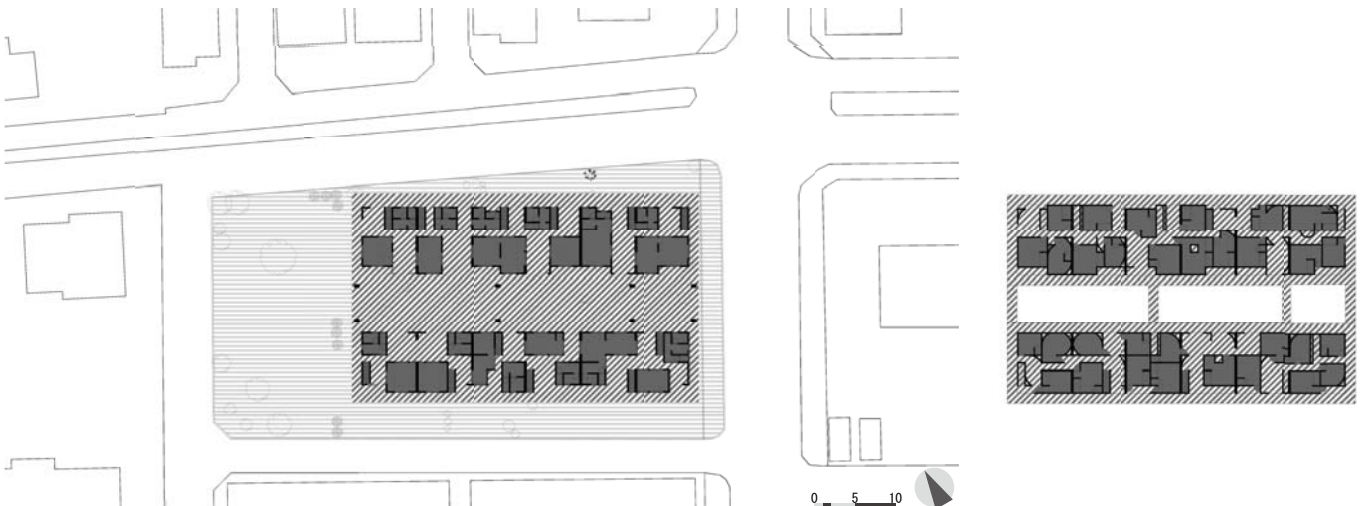


図6. 改修1階平面図(左)・改修2階平面図(右)(色分け：図2参照)